



学校だより

令和4年度 附属幼稚園・義務教育学校研究集会 開催

義務教育学校前期課程 副校長 瀧野 泰臣

6月3日(金)4日(土)に、令和4年度教育研究集会が、県内より約200名の参観者をお迎えし、開催されました。コロナ禍の終息が見えない中で「子供たちの学びを止めない」と同様に私たちの研究も止めてはいけないという思いで、規模を縮小し、感染予防に十分配慮して対面での研究集会(一部オンラインとのハイブリッド)を2日間にわたり開催しました。来校者数を制限した研究集会とはいえ、参観者を迎えての研究集会は3年ぶりでした。昨年度から、附属幼稚園・附属義務教育学校が共催の形で実施しておりますので、子供たちの12年間の学び、育ちの様子を参観していただきました。

研究主題「自律的な学びへのイノベーション／探究するコミュニティを培う」のもと、今年度は研究副題を「学びの価値を子どもと共に繰り上げる」とし、研究の成果を発表しました。1日目は、各教科の公開授業、午後からは各教科ごとの分科会、2日目は、社会創生プロジェクト(以下社創)の公開授業と分科会、そしてシンポジウムが行われました。

今回の研究集会は、1日目に「教科」の学び、2日目に「社創」の学びを参観者の先生方に見ていただきました。昨年度の研究集会では、事前に実践された授業について、オンライン研究会に参加された先生方が、同じくオンライン研究会に参加した児童生徒に対して質疑応答の時間を取りましたが、今年度は、授業後に児童生徒と授業を参観した先生方との「語り合いの時間」を設けました。あまり他校の研究会では見られない試みです。本校では、以前から教員の話し合いの中に児童生徒に参加してもらったり、参観者の先生方に向けて自分たちの学びの成果を発表したりする機会はありませんでしたが、今回のように授業後にすぐに語り合いの場をもったことは、参観された先生方はもちろん児童生徒にとっても実り多い時間になったようです。「なぜ、あのとき、そう思ったの?」「あのときの発言は良かったね。」など他校の先生方と考えを交流する中で子供たちもより深い学びを体感することができました。



3年生の音楽科の授業



6年生の社会科の授業



7年生の数学科の授業

【生徒の感想より】

◇今回の授業を踏まえての研究集会では、先生方からの客観的な視点でアドバイスなどをもらえて良かったです。僕が先生と話し合った中で、印象に残ったことは、雑談の中から授業につながることを見つけていくということです。四役のような進行する人が、グループワークのときなどにグループの中に入り、一緒に考えて話し合いながら意見を拾っていきなるといいなと先生が話していました。それは、自分ら

ウンドテーブルで思っていたことでもあるから、次の脚本の練り合いの時間にいかしていきたいです。また、今回の分科会は、オンラインではなく対面で、緊張したけど話しやすかったです。（9年生徒）

◇研究集会分科会では、周りから見て附属の活動がどう思われているのかが知ることができました。また、自分たちの学びや活動についてを話すことが多く、話をしているときに「四役のみんなが対立しないようにふんわりと言葉で表していたり言いたいことをズバッと言ったりするのではなくおさえている感じがした。」と言われました。確かにそうしてしまっているときもあるのかなと思いました。アドバイスとして「もっとぶつかり合っていく方がよりよい意見や考えが生まれるしぶつかり合っていける環境は良いものだ」と伝えてくれました。これを聞いて、この言葉は自分たちが伝えたいことにつながると思いました。（9年生徒）

◇社創研究授業では、私達が試行錯誤して考えた会議を熱心に聞いていただけてとても嬉しかったです。また、学年全体でも一人一人が真剣に取り組んでいて、とても有意義な時間を作ることができたと感じました。分科会では、保育士の方や大学の方々と話し合いをし、なぜこの野菜を植えたのか？枯れた理由はなんなのか？などそれぞれの立場から見た鋭い質問をいただきました。その質疑応答から、今の社創の問題点を再確認することができたので、今後の活動に活かしていきたいと思います。（8年生徒）

◇私は、分科会のような大人の方から意見をもらえるという体験をしたのは初めてでした。「活動に誇りを持っている。」と言われたときは、自分達の活動がちゃんと伝わっているのだと思い、とてもうれしかったです。また、自分が、だめだと思いこんでいたことを、こうしてみてもどうかな？とアドバイスをいただきました。これからは、幅広い視点で社創を見て、全員が精いっぱい取り組める社創にしたいです。（8年生徒）



4年生の社創の授業
～つくりよう 広げよう 笑顔の「輪」～



6年生の社創の授業
～ぼくらは、どうやって生きている？～



9年生の社創の授業
～伝えたいことに迫ろう～

今回の研究集会を参観して下さった方の感想の一部を紹介いたします。

- 子供たちは「伝えたい」という気持ちがあり、グループになって積極的に自分の意見を言う姿、全体発表において「質問していいですか？」と相手の意見にしっかりと耳を傾けて、さらに学びを深めようとする姿は、さすが附属の子だなと感心しました。
- 授業後の児童生徒との語り合いの時間がとてもよかったです。説明途中で時間になって終わってしまったから、わざわざ私を探して残りの説明をしてくれた6年生の男児、どの子も話しかけると丁寧に答えてくれました。

シンポジウムでは、「教科と社会創生プロジェクトで往還する資質・能力」をテーマに学習院大学教授 秋田喜代美先生、上智大学教授 奈須正裕先生をシンポジストとしてお迎えし、本校の研究について価値付けをしていただいたり、課題を提示していただいたりしました。

研究集会に参加された先生から、本校の取組が、これからの社会が求める人材を育成するにふさわしい方向性で研究が進められているとお言葉もいただきました。今後も本校の強みであるリフレクション（省察）の質、教職員の協働性を高めながら、幼稚園と義務教育学校をつなぐ12年間の学びを貫く教育課程の開発に努めていきたいと思います。